

〈実践報告〉

板橋仲宿商店街の聞き取り調査報告 1

—フィールドワーク授業の実践例—

遠藤 ゆり子

要 約

本稿は、淑徳大学人文学部歴史学科の授業「日本地域史」の実践報告である。これまで本授業では、江戸時代の中山道板橋宿跡の歴史を取り上げ、フィールドワークの手法を用いて学生が主体的に学習するアクティブラーニングを行ってきた。本年度は、板橋宿跡に展開している商店街のうち、仲宿商店街の歴史に注目した。仲宿商店街は、旧中山道沿いに位置し、北は石神井川、南は王子新道と中山道が交わる交差点を境としている。今年度の授業では、聞き取り調査の手法を学ぶことを目的の一つとし、仲宿商店街の老舗店主からの聞き取り調査を行った。具体的には、板橋区公文書館が所蔵する昭和30～50年頃に撮影された写真が、いつ頃どこで撮影されたかを聞き取る調査である。本稿では、授業の概要を述べた上で、調査の成果について整理した。なお、本授業は板橋区公文書館の「板橋学校」の一環として行われており、板橋区・仲宿商店街との連携事業の一つでもある。

キーワード

板橋区 仲宿商店街 聞き取り調査 フィールドワーク 授業

はじめに

本稿は、淑徳大学人文学部歴史学科の2022年度(前期)開講授業「日本地域史」の授業内容とその成果をまとめたものである。本授業は、東京キャンパスがある板橋の歴史に注目し、アクティブラーニングによって、歴史学を学ぶ手法を身につけるとともに、歴史を学ぶ意義を考えることを目的としている。

2019年度・2021年度は、江戸時代の中山道板橋宿にあった旅籠伊勢屋孫兵衛家に伝来した「伊勢孫文書」(板橋区郷土資料館所蔵)を撮影、翻刻をした。翻刻の成果は、本誌で報告するとともに¹、文書の写真と翻刻データは板橋区郷土資料館にも提供してきた²。

しかし、この2年間の授業を通じて、「伊勢孫文書」は2年次生中心の授業で翻刻する史料としては難易度が高いという印象を抱いた。また履修する学生数が増え、教員1名では学生の史料読解を十分にサポートすることが難しいとも感じていた。そのため、本年度は授業で「伊勢孫文書」を翻刻することは見送ることにした。

そのようななか、板橋区公文書館より、同館の事業「板橋学校」との連携について企画提案があった³。そこで、同館との協議を重ね、新しい内容の授業計画を立て、板橋宿跡の中央部に位置する仲宿商店街の店主の協力を得て、「少し昔の仲宿商店街」をテーマに聞き取り調査を行うこととした。

仲宿商店街とは、板橋区仲宿にある旧中山道沿いの商店街である⁴。北は、区の名称の由来でもある石神井川に架けられた板橋を隔てて本町と隣接し、南は旧中山道と王子新道が交わる交差点で板橋三丁目の不動通り商店街に接している。商店の多くは旧中山道沿いにあるが、西隣の氷川町にある氷川神社へ向かう道沿い、乗蓮寺跡に残る旧参道沿い、王子新道沿いにも広がっている。板橋宿跡にあるという歴史的な背景を活かしつつ、活気ある商店街として多くの人々に親しまれている。

そのような仲宿商店街は、常に人通りが絶えないが、貸店舗が多いためか商店の入れ替わりは比較的激しいという⁵。しかし、板橋区公文書館では、“昭和30～50年頃に仲宿商店街を撮影した写真”が数点保存されていた。これらは、かつての景観を知る手掛かりとなる重要な資料だといえる。ただ、撮影者は既に定かでなく、どこで撮影された写真かといった詳細は不明であった。

そこで、当時を知る店主から撮影場所や時期などを確認し、「少し昔の仲宿商店街」を復元したいと考え、板橋区公文書館の協力も得て聞き取り調査を実施することとなった。住宅街にある同商店街は、前述のように景観変化のスピードが速く、日常的な風景であるためか商店街の風景写真などは、あまり残ってはいない。今回、聞き取りで明らかになったことも、記録に留めなければ早晩失われる記憶だと言える。

そのため本稿では、今年度の授業の概要を説明した上で、「少し昔の仲宿商店街」の実態を知る上で不可欠な手がかりである“昭和30～50年頃に仲宿商店街を撮影した写真”の撮影場所を地図上に明示し、調査の成果を整理しておきたいと思う。

1. 「日本地域史」の授業

(1) 履修学生

本授業は、人文学部の2年次生以降に開講されている科目だが、履修者はすべて歴史学科の学生となった。本年度の履修者は3年次生が1名、2年次生が19名、合計20名であった。

(2) 授業形態

① 対面での集中授業

本学人文学部の2022年度の授業は、新型コロナウイルスへの感染対策をおこないつつ、すべて対面で実施する方針が示された。そのため本授業も昨年・一昨年と異なり、対面にて開講することができた。

2 また、詳細は後述するが、学外の施設を訪れたり、現地を歩いたりするフィールドワークや、調査を中心とした授業計画を立てたため、土曜日や履修学生の授業時間外を利用した集中授業の形式をとった。

② グループワーク

本授業の形態は、講義形式も取り入れつつ、フィールドワークや発表などのアクティブラーニングを主体とするものである。フィールドワークや発表では、学生同士が調べた成果について情報交換をしつつ、協力して互いに学び合えるよう、グループワークとした。グループは、5名ずつで4つ作ることを学生に伝えた。それを受けて、学生同士が話し合いながらグループを結成した。

本年度の対面授業においても、前年に引き続き、他者との接触をとまうような授業方法は控えるこ

とが求められている。そのため、履修人数はこれまでよりも少人数とし、ソーシャルディスタンスを充分に取れるよう配慮した。また、学生同士の接触を減らすため、Google Classroomの機能を活用し、オンラインでの情報交換やスライドの共同制作を中心とするグループワークができるようにした。

(3) スケジュール

当初は、集中授業を3日間実施する予定であったが、3日目の授業を2回に分け、4日間で実施した⁶。次に、授業内容の概要を記す。

① 1日目(大学内にて授業実施後、移動して板橋区公文書館および仲宿商店街周辺で実施)

1 限目 ガイダンス、板橋の中世・近世・近代・現代史の概説

- 授業説明を行った
- 講義形式で、板橋の歴史および板橋の商店街の歴史について概説した
- 事前に、Google Earthで作成したスライドで学習する課題を出している

2 限目 グループの結成、フィールドワークの準備

- 4グループを作り、グループ内の役割分担を決めた
- 現地を歩く際、指標となる施設を地図上で印を付けるなどの準備をした

(昼休み=昼食、移動)

3～5 限目 フィールドワーク(密を避けるため、1・2班と3・4班の2組に分かれて実施)

- 1・2班は、板橋区公文書館で文献・写真等を収集し、その後、仲宿商店街周辺の史跡を巡見した
- 3・4班は、仲宿商店街周辺の史跡を巡見後、板橋区公文書館で文献・写真等を収集した

② 2日目(板橋区公文書館にて授業を実施後、移動して大学内で実施)

1 限目 調査および午後の授業についての説明

2 限目 聞き取り調査

3～5 限目 現地調査・スライド作成

- グループに分かれて、聞き取り内容を踏まえて現地調査を実施した
- 大学へ戻り、スライド作成の準備や打ち合わせを行った

③ 3日目(大学内で授業を実施)

1 限目 スライド作成および発表の準備

2・3 限目 グループ発表とふりかえり

- グループごとにスライドを使って発表した
- 発表を見た班が、ループリックを使って発表を評価した
- 各自が、ループリックを使ってグループワークについてふりかえり、評価を加えた

④ 4日目(大学内で授業を実施)

1 限目 「地域の歴史を研究すること」(講義形式)

2 限目 報告書のふりかえり

- 各グループのスライドをもとに報告書を作成し、全員に配布して共有した
- 報告書の内容について互いに講評を行った

(4) 学生の研究成果

前述のように、本授業はグループ発表を基本としたが、グループ内では学生がそれぞれ研究テーマを設定し、2枚以上のスライドを作成した。スライドは、Google Classroomの授業課題として配布し、Googleスライドの編集機能を使用して共同で作った。スライドのサイズは、A4(縦長)サイズに設定し、学生にはスライドをもとに報告書としてまとめることを伝えている。また、スライドとは別に、最後にレポートを提出することとした。レポートは、1600字以上、写真・地図を活用することを条件とした。次に、グループごとに各学生の研究テーマを示す。

① 1班「僕らの調査報告」

- 「遍照寺の今と昔の相違点」(2年次生 高橋大輝)
- 「文殊院から見る仲宿の人々の信仰」(2年次生 庭田明)
- 「恐怖!! 縁切榎の伝説!!」(2年次生 貝塚玲旺)
- 「仲宿商店街と氷川神社の関係」(2年次生 福田洸希)
- 「今と昔の仲宿の祭が果たす役割はどのように変化していったのか?」(2年次生 小澤知里)

② 2班「仲宿商店街の歴史とその近辺について」

- 「現在の仲宿商店街が築き上げるまでの背景」(2年次生 横山千香子)
- 「石神井川の水害被害と防災」(2年次生 萱森早紀)
- 「米流通の歴史と仲宿商店街の米屋」(2年次生 宇治川夏翠)
- 「昔の浄蓮寺」(2年次生 平良道爽)
- 「板橋区で起きた爆発事故」(2年次生 寺本聡太)

③ 3班「仲宿商店街のまとめ」

- 「遍照寺のあゆみ」(2年次生 遠藤裕仁)
- 「仲宿商店街と昔懐かしいおもちゃ屋さん」(2年次生 池田一樹)
- 「中山道最初の宿場町板橋宿」(2年次生 神道周磨)
- 「昔の商店街のすがた」(2年次生 青木悠人)
- 「2人のレジェンドが語った仲宿商店街」(2年次生 柳澤希光)

④ 4班「仲宿商店街の魅力」

- 「仲宿商店街の景観について／板五米店」(2年次生 下村真央)
- 「仲宿商店街の昔と今」(3年次生 鈴木初美)
- 「銭湯の廃業と存続」(2年次生 笠川統矢)
- 「氷川神社例大祭と仲宿商店街」(2年次生 島田健史)
- 「卯建と板五米店」(2年次生 中澤拓也)

4

2. 板橋区公文書館との連携事業による聞き取り調査

(1) 板橋区公文書館との連携事業

① 板橋区公文書館の「板橋学校」

板橋区公文書館では、中山道の宿場であった板橋宿跡とその周辺地域の魅力を再構築することを目的

として、2021年度から「板橋學校」と称する事業を開始した。既にこれより以前に、板橋区の仲宿商店街振興組合は、区・板橋区商店街連合会第一支部等の協力のもと、「旧板五米店(大正3(1914)年建築)」を活用した商店街づくりを進めていた。同事業はこの活動と連携したものである⁷。

本授業では、これまでも公文書館との連携が続けてきたが、本年度は公文書館からの提案もあり、「板橋學校」の一環として位置づけられることとなった⁸。それにより、調査会場の確保や調査先との連絡などにおいて、板橋区公文書館から多くの協力を得ることができた。

また、授業での連携を進めるに際して、2021年12月11日(土)に板橋区公文書館で行われた「板橋學校」第5回目の講座に、筆者も受講者として参加した。この講座は、熊本博之氏(明星大学)を講師として、「老舗商店主が語る板橋宿」をテーマに設けられた。なお、本授業の聞き取り調査は、同講座の内容と手法(詳細は後述)に学ぶところが多い。

② 公文書館での資料・文献収集

集中授業1日目の午後(班によって時間帯は異なる)は、班ごとに板橋区公文書館が所蔵・保存する仲宿商店街に関する文献や写真などの資料を収集した(写真A)。聞き取り調査で使用した昭和30～50年頃に撮影された写真17点も、公文書館が所蔵するものである。同館の専門員でアーキビストの西光三氏の説明によれば、写真は昭和29年(1954)に区で開催された写真コンクールへの出品作、および区の広報担当が撮影した写真であるという。

(2) 調査の概要

2022年5月21日(土)の午前中に、板橋区公文書館の講義室を会場として聞き取り調査を行った。当初は、学生5名程度に対して話者1名を囲むグループをいくつか作り、座談会形式で聞き取り調査を行うことも検討していた。しかし、コロナ禍にあっては座談会形式の調査は難しいと思われた。そこで、前述の「板橋學校」第5回目講師の熊本氏による講座の手法に学び、筆者と壇上にいる話者との対談形式で聞き取りを行い、学生は対談内容をメモするというスタイルの調査に変更することとした(写真C・D)。

話者は、「板橋學校」第5回目と同様、仲宿商店街振興組合代表理事で星野家具店店主の星野久男氏と、小川米店店主の小川雅之氏である。星野家具店は昭和30年(1955)に豆腐店として開業し、昭和40年(1965)に家具店となった歴史を持つ商店である。小川米店は、慶応3年(1867)から明治元年(1868)にかけて筆屋として始まり、一時期はパン屋も営んだ老舗商店である。話者は、両名とも昭和29年の段階には仲宿商店街の店舗兼住宅に居住し、子ども時代を過ごしている⁹。

聞き取りの時間は1時間程度と限られていたため、今回は前述した公文書館所蔵の昭和29年および昭和40～50年代の仲宿商店街を撮影した写真を見ながら、撮影場所を確認することにとどめた。事前に星野氏・小川氏には当日に確認したい内容を伝え、写真17点を送っている。

調査時は、タブレットとつないだプロジェクターから、地図・写真などをスクリーンに投影した。筆者がタブレット上の地図などに書き込みをしながら話を進め、その様子をスクリーンにも投影した(写真D)。学生は、スクリーンに投影された地図や写真を見ながら、各自が準備した地図で位置を確認しつつメモをとった(写真C・D)。話者と筆者の対談後に、学生から質疑を受ける時間を設けた。

休憩をはさんで、午後は聞き取り内容を踏まえて、班ごとに現地を踏査した。班によっては、現地でさらに星野氏に質問するなど、確認作業を行った(写真B)。



【A 板橋区公文書館での資料・文献収集】



【B 現地で星野氏の説明を聞く学生】



【C 板橋区公文書館での聞き取り調査の様子】



【D 壇上の話者との対談形式】

(学生はスクリーンに投影された地図・写真と、手元の地図を確認しながらメモを取った)

3. 調査の成果 —写真の概要と撮影場所の比定—

板橋区公文書館では、区の広報や区民から提供された多くの写真が保存されている。前述のように、そのなかから仲宿商店街を撮影したと思われる写真17点をピックアップすることができた。調査では、星野久男氏・小川雅之氏にこれらの写真の撮影場所などを確認した。ここでは、写真に関する聞き取り内容と、撮影場所を地図上に示し、調査の成果を整理しておきたい。

(1) 写真の概要

まず、公文書館所蔵の写真17点を掲げる。なお、便宜上、各写真に1～17の番号を付した。写真番号ごとに記した()内の説明は、全て星野氏・小川氏から聞き取った内容である。

6



【1】(金子時計店)



【2】(1965年頃、右上の商店街ゲートに「Fudodori」と見える)



【3】(1963年頃)



【4】(1965年以前、左側の豆腐店は、現在の星野家具店。)※写真下部を削除した。



【5】(1968年頃、野崎豆腐店)



【6】(1972年、「板橋」掛け替えのイベント。
中央は区長。上部にほねつぎ、薬局の看板)



【7】(1965年頃、仲宿商店街ガード。
北から南へ向かって撮影)



【8】(1973年頃、丸福フードセンター)



【9】(1973年頃、丸福フードセンター)



【10】



【11】



【12】

(1975年。同年7月30日に完成したことが、9月8日付「読売新聞」に掲載された。当時、道路に【10】～【13】のようなペイントは珍しかった)



【13】



【14】(1971年以降、旧板五米店前)



【15】(左に小松屋の看板)



【16】(左到北京飯店、右に小松屋の看板)



【17】(1983年以降、左に小松屋の看板)

以上、写真ごとに聞き取り内容を整理した。撮影年代は、話者の説明では元号(昭和)が使われていたが、全て西暦に直している。

(2) 写真の撮影場所

次に、写真1～17が撮影された場所を示した地図を掲げる。地図上の番号が写真番号に対応している。また、地図には仲宿商店街の南北の境界を傍線(実線)で示した。北部にある現在の区立石神井川緑道は、石神井川の旧河道であるため、旧河道で囲まれた地域は仲宿ではなく本町に所属する。つまり、仲宿商店街の北境は現緑道(旧河道)であり、南は不動通り商店街に続く交差点を境とする。

地図に示したように、写真の撮影場所は、仲宿商店街の北側ゲート付近に2箇所あるほかは、全て中央よりも南であった。その理由は定かではないが、昭和46年(1971)に赤塚へ移転するまで仲宿にあった乗蓮寺の参詣路に当たり、板橋区役所や不動通り商店街にも近く特に賑わいを見せる地域であったため、撮影場所として注目されたのかもしれない。

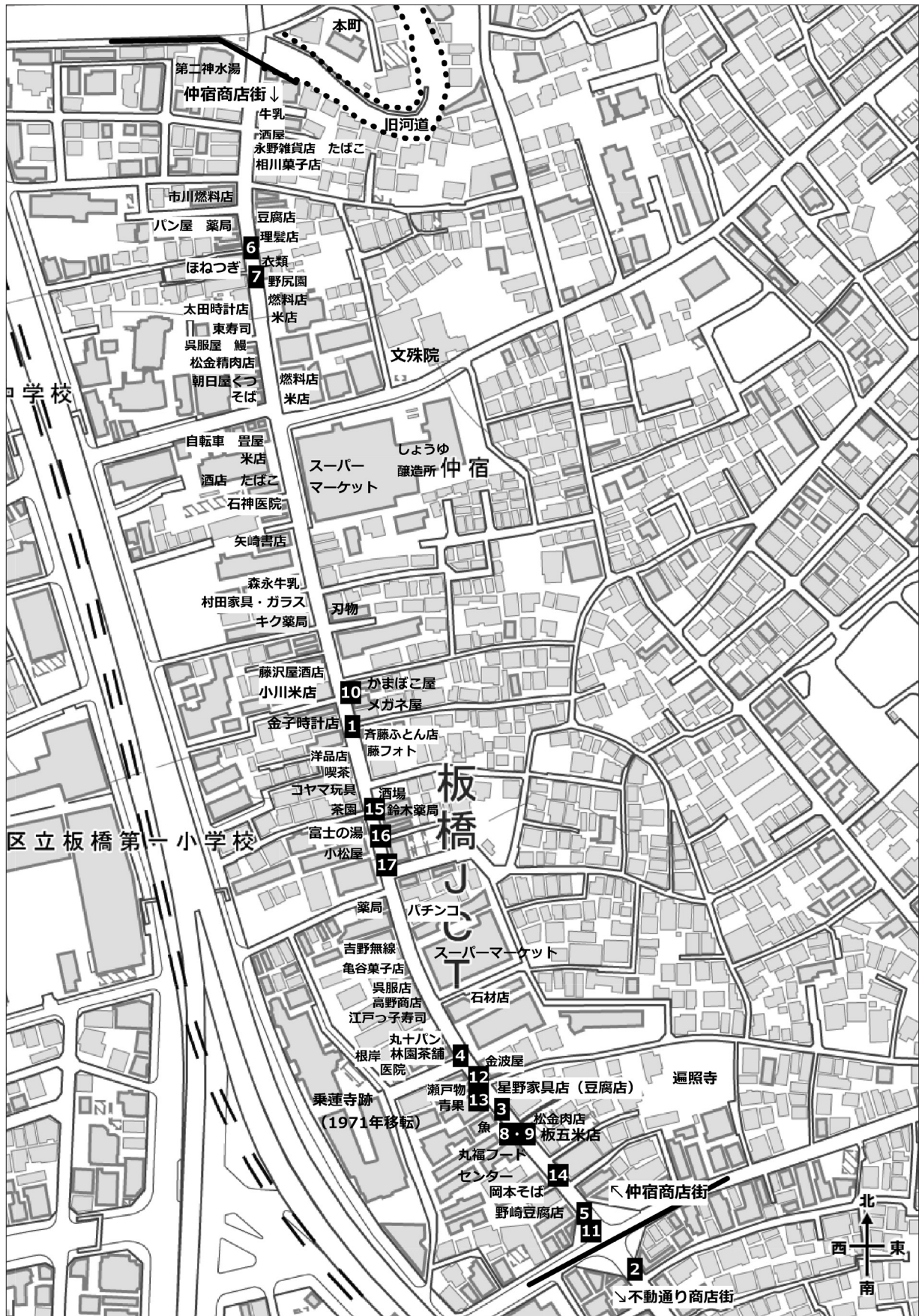
おわりに

本稿では、2022年度における授業の実践例を述べた上で、聞き取り調査で明らかになった昭和30～50年頃に撮影された板橋仲宿商店街の写真に関する情報を整理した。

店舗の入れ替わりが激しい商店街にあっては、景観が変容するスピードも速いことを改めて感じた。当時の商店街の案内図や住宅地図などによって、どこにどのような商店があったかはある程度は復元できる。だが、かつての商店街を知らない者にとって、写真の撮影場所の比定は、写真にある看板や地図などを参考にするだけでは難しかった。なぜなら、必ずしも地図上に残された店名と看板が同じではなく、同種の商店が複数あるなかで、どの商店の写真かを特定することが容易ではなかったためである。

また、そもそも公文書館で保存されている写真は、景観を後世に伝えることを目的として撮影されたものではなく、あくまでもコンクール用ならば風景写真として、広報写真ならばあるモノやコトを伝えるために撮影されたものである。そのため、写真が撮影された当時を知る星野氏、小川氏の協力がなければ、撮影場所の比定は困難であったと思われる。今回は、これらの写真が歴史資料としての意味を持っていること、聞き取りによって資料としての意義を深められることを再確認できた。

日常の風景としてある商店街の景観は、記録として残りにくいと思われる。だが、少ない資料と記憶をもとに歴史を復元することは、旧板五米店などの歴史的建造物や景観を活かしつつ、商店街が新たな展開を遂げていく上で、一定の意味があると思われる。今後は、今回の成果を踏まえ、商店の屋号や特色、仲宿という町との関係などを調べ、仲宿商店街の歴史をさらに立体的に描いていきたいと考える。



【板橋 仲宿商店街周辺地図(国土地理院2500分1地図をもとに作成)】

(1～17の番号は、前掲の写真番号に対応する。また、商店は昭和35年(1960)・昭和48年(1973)の「住宅地図」(ゼンリン、板橋区公文書館所蔵)を参考にした)

〔謝辞〕

本授業を行う上では、板橋区公文書館副館長の桑畑陽一氏、同館専門員でアーキビストの西光三氏、仲宿商店街振興組合代表理事で星野家具店店主の星野久男氏、小川米店店主の小川雅之氏にご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

注

- 1 拙稿「板橋宿『伊勢孫文書』の調査報告と史料紹介―フィールドワーク授業の実践例―」(『淑徳大学 人文学部 研究論集』第5号、2020年)、同「板橋宿『伊勢孫文書』の調査報告と史料紹介2―オンデマンド型授業の実践例―」(同前第7号、2022年)。なお、日本地域史の実践報告には、拙稿「志村延命寺・前野町東熊野神社・志村熊野神社の石造物調査―板橋区志村地域におけるフィールドワーク授業の実践例―」(同前第3号、2018年)、同「板橋宿の研究動向とフィールドワーク授業の実践例」(同前第4号、2019年)、同「板橋宿の歴史を学ぶオンライン授業の実践例―2020コロナ禍での大学教育の記録―」(同前第6号、2021年)がある。
- 2 本学は板橋区と地域連携協定を結んでいるため、その協定が本授業でも活かされている。
- 3 「板橋学校」とは、2021年度から板橋区公文書館で開かれている市民講座などを中心とする事業である(詳細については第2章を参照)。
- 4 仲宿商店街振興組合HP(2022) URL <https://www.nakajyuku.jp/index.html> (2022年8月17日取得)の「商店街概要」「お店一覧」「仲宿商店街マップ」による。
- 5 仲宿商店街振興組合代表理事である星野久男氏の説明による。
- 6 3日目の授業で外部講師による講義を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響によって一度は延期となり、最終的には外部講師の講義を中止して通常授業をおこなった。
- 7 板橋区公文書館副館長の桑畑陽一氏、同館専門員西光三氏の説明による。
- 8 前述のように本学と板橋区の連携協定が結ばれているため、本授業での連携を進めることができた。
- 9 星野久男氏と小川雅之氏からの聞き取りによる。なお、両氏からは生年を確認しているが、個人情報のため本稿で明記することは差し控える。